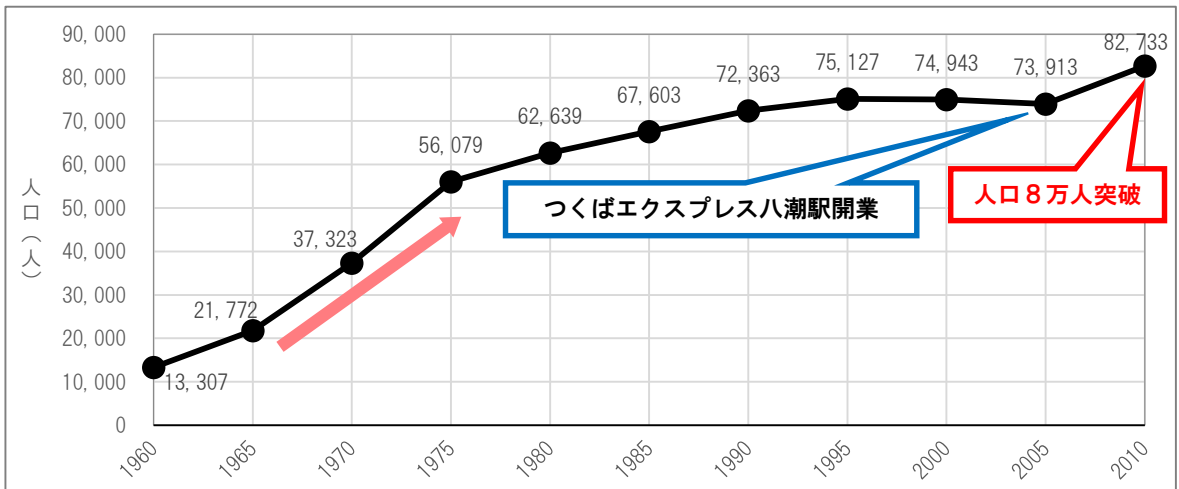


## 人口動向分析の結果

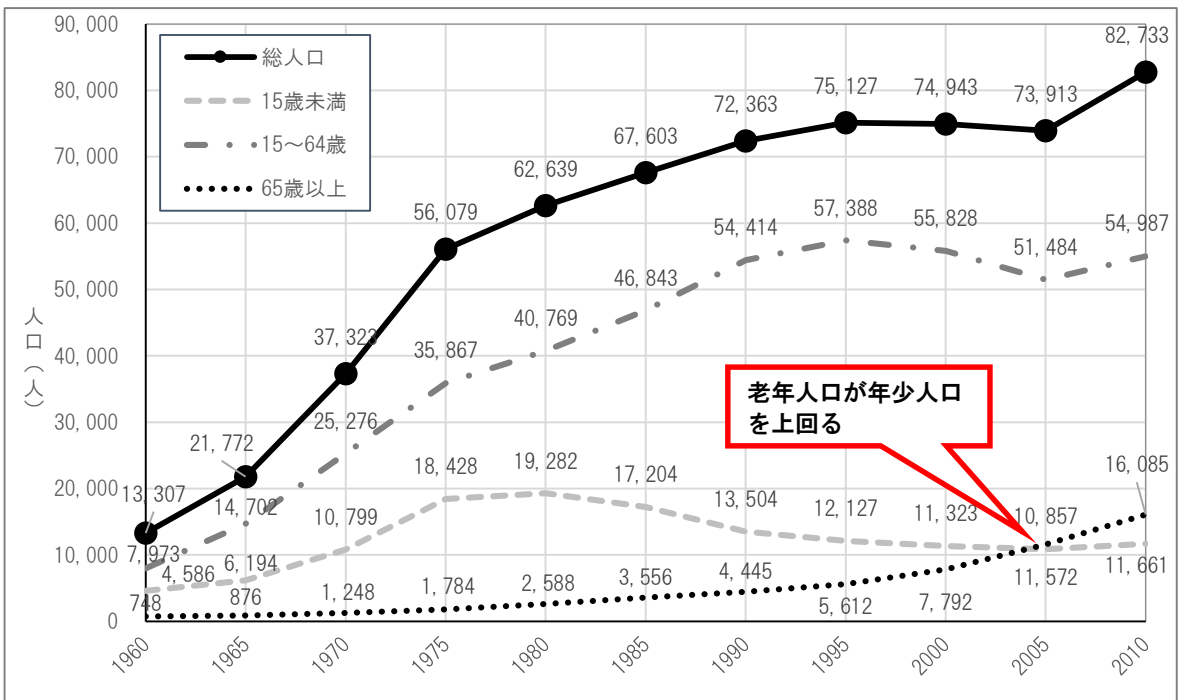
■ 人口動向分析  
1. 人口の推移



出典：総務省「国勢調査」  
※年齢不詳人口を除く

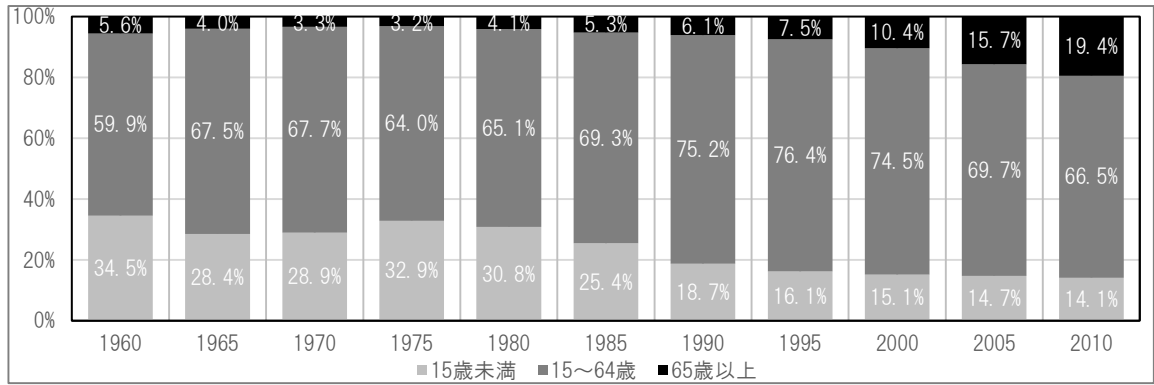
本市の人口は、高度経済成長期に大幅に増加し、その後も増加を続けていたが、1995年以降減少に転じた。しかし、2005年のつくばエクスプレス八潮駅の開業と、周辺地区の市街地開発等の影響により、再び人口が大幅に増加している。

2. 年齢3区分別人口の推移



出典：総務省「国勢調査」  
※年齢不詳人口を除く

本市の生産年齢人口（15～64歳）は、総人口同様、高度経済成長期以降増加を続け、1995年をピークに減少に転じていたが、2005年以降再び増加に転じている。一方、年少人口（15歳未満）は、1970年代前半の第二次ベビーブーム期に大きく増加したものの、その後は伸びが低迷し、近年は緩やかに減少していた。2005年以降の人口増に伴い、若干ではあるが、回復している。老年人口（65歳以上）は、年々増加し、近年はより急速に増加する傾向にある。

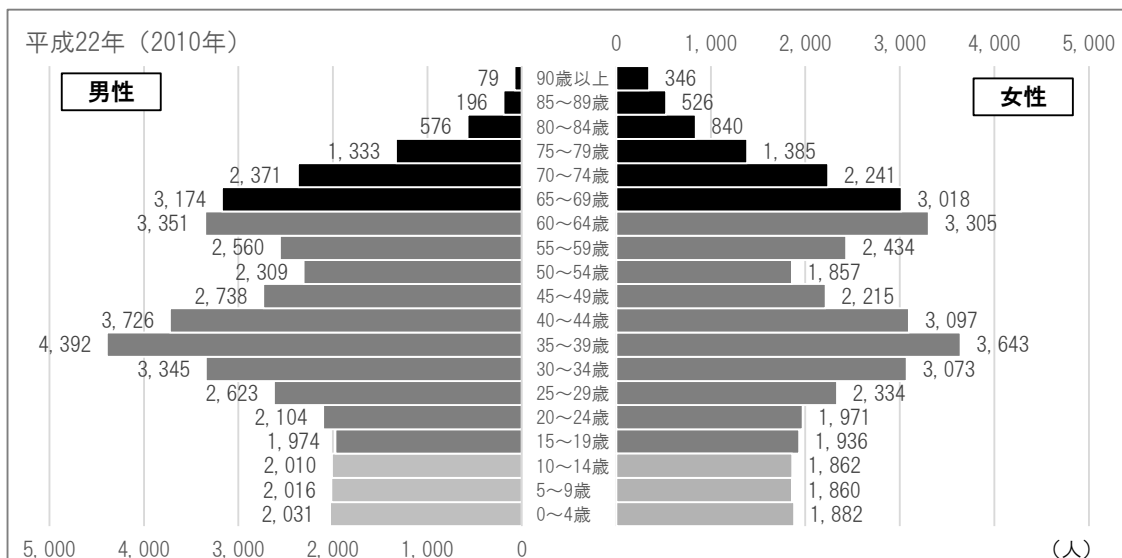
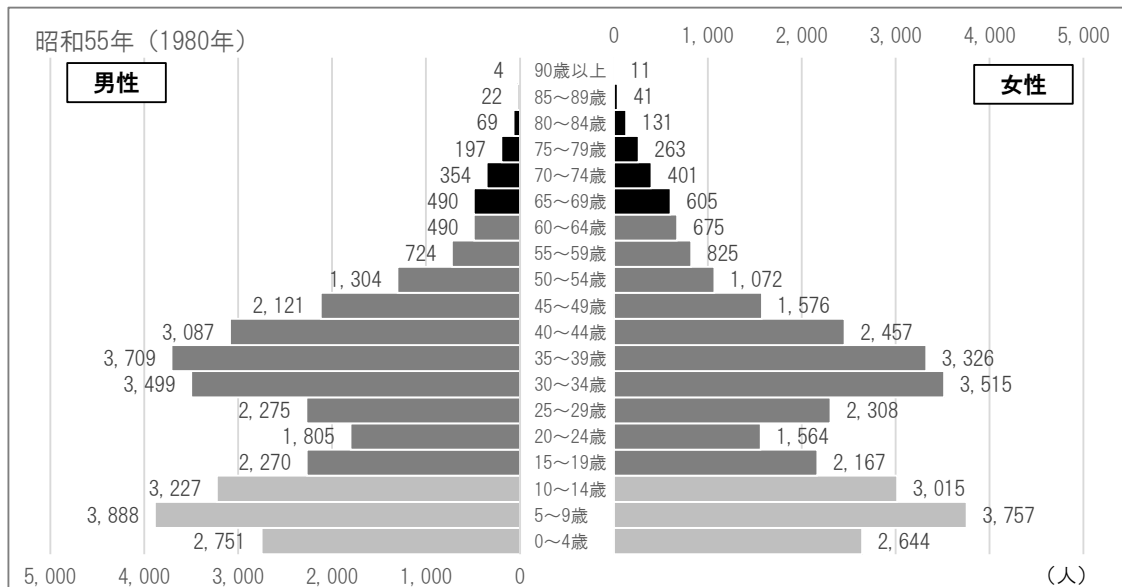


出典：総務省「国勢調査」

※年齢不詳人口を除く

少子高齢化は、全国に比べ緩やかなものの、本市でも進んでおり、2010年には高齢化率が19.4%となっている。

### 3. 人口ピラミッドの推移

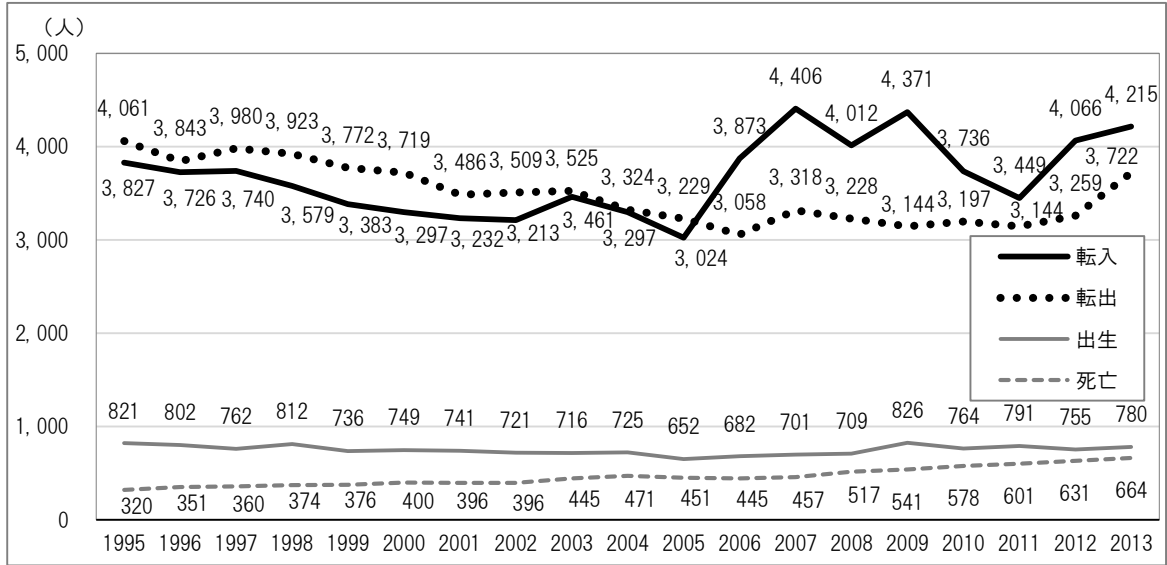


出典：総務省「国勢調査」

※年齢不詳人口を除く

本市の1980年と2010年の人口構成を比較すると、高齢者が大幅に増加している一方、年少人口は減少が著しい。

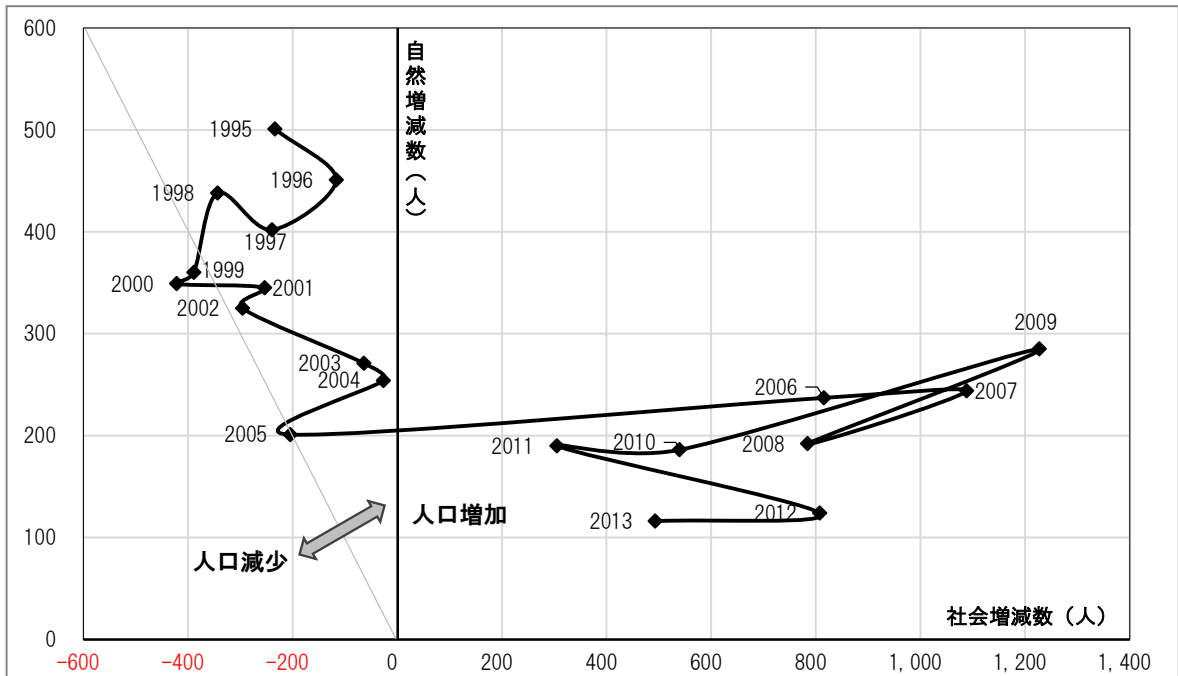
#### 4. 出生・死亡、転入・転出の状況



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」  
 ※2012年以前は日本人の数、2013年は日本人・外国人の合計

本市の出生数はほぼ横ばいで推移しており、死亡数は緩やかに増加を続け、死亡数と出生数の差が縮まっている。転入・転出数はともに減少傾向にあったが、つくばエクスプレス八潮駅の開業以降 2005 年～2010 年の 5 年間は転入数が大幅に増加した。2011 年以降再び、転入数が増加傾向にあるが、一方で、転出数も大幅に伸びている。(2013 年の日本人のみの転入者数は 3,840 人、転出者数は 3,504 人)

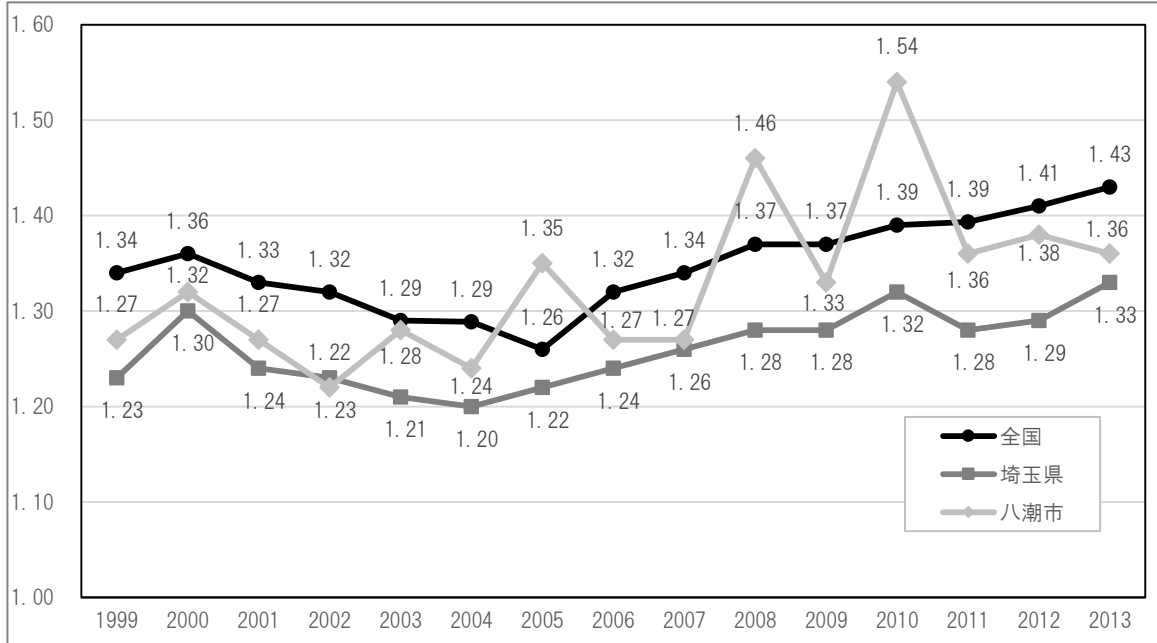
#### 5. 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」  
 ※2012年以前は日本人の数、2013年は日本人・外国人の合計

1995 年以降、本市では、つくばエクスプレス八潮駅が開業する 2005 年まで社会減が続いており、自然増により人口を維持していた。つくばエクスプレス八潮駅開業以降、転入超過による大幅な人口増加が続いているが、その増加数は減少傾向にある。また、自然増は続けているものの、その増加数は年々減少傾向にある。

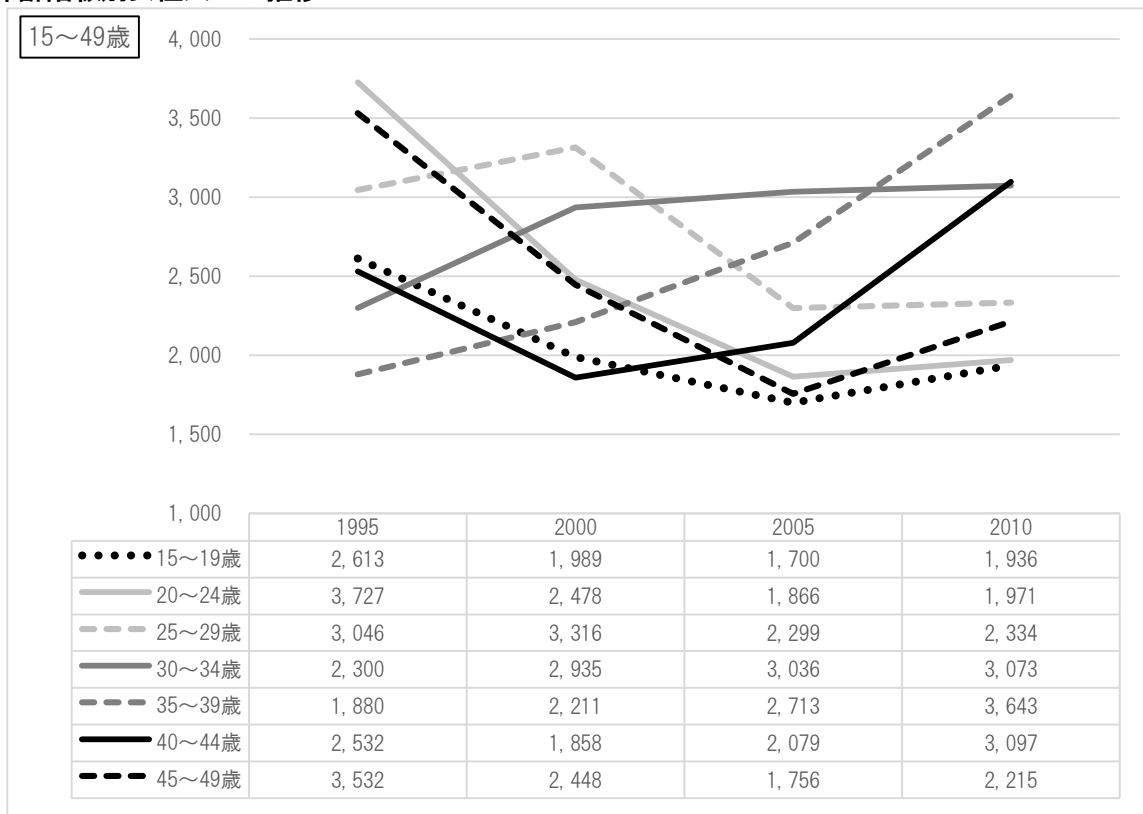
## 6. 合計特殊出生率の推移



出典：埼玉県「保健統計」

本市の合計特殊出生率は、埼玉県平均を概ね上回っているが、各年の波が激しい。また、2002年以降、本市の合計特殊出生率は高まる傾向にある。

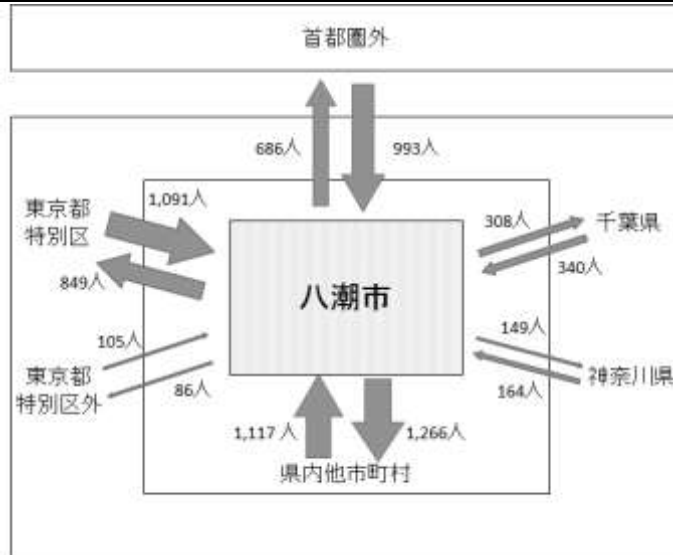
## 7. 年齢階級別女性人口の推移



本市の15～49歳の年齢別女性人口は、25～39歳を除く全ての世代が減少傾向にあったが、つくばエクスプレス八潮駅が開業した2005年を境にどの年代も増加に転じている。特に、35～49歳の女性の伸びが大きい。

## 8. 転入・転出の状況

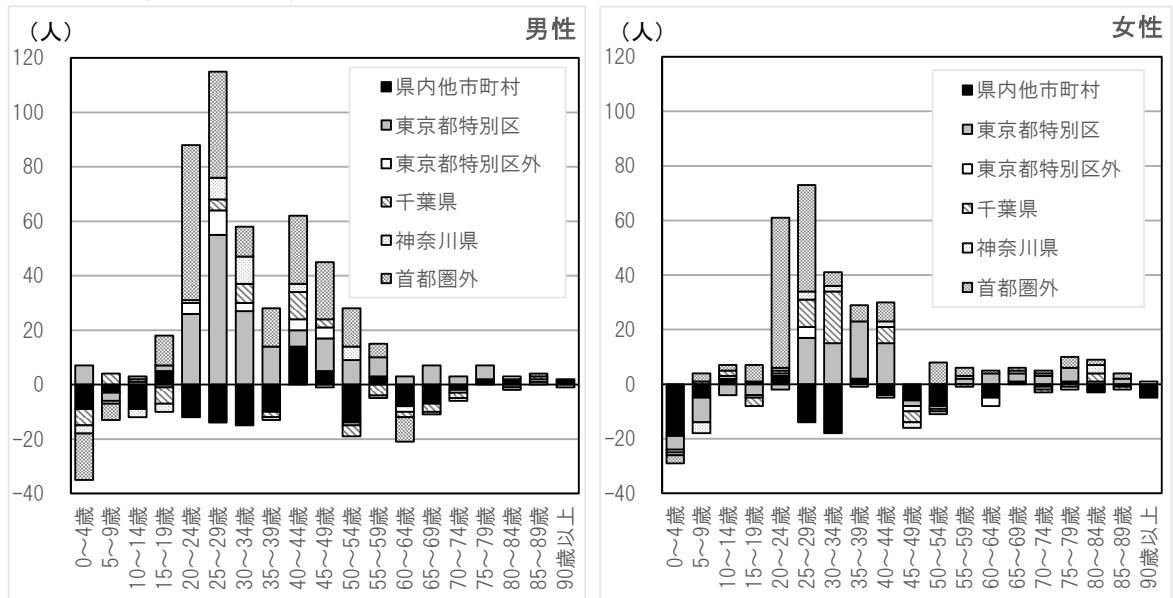
	転入数（人）	転出数（人）	純移動数（人）
県内他市町村	1,117	1,266	-149
東京都特別区	1,091	849	242
東京都特別区外	105	86	19
千葉県	340	308	32
神奈川県	164	149	15
首都圏外	993	686	307
合計	3,810	3,344	466



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告（2013）」

本市の2013年の転入・転出の中心は、埼玉県内の他市町村及び東京都特別区であり、埼玉県内に対しては転出超過、東京都特別区に対しては転入超過の状況にある。また、その他の地域に対しては、転入超過の状況にある。

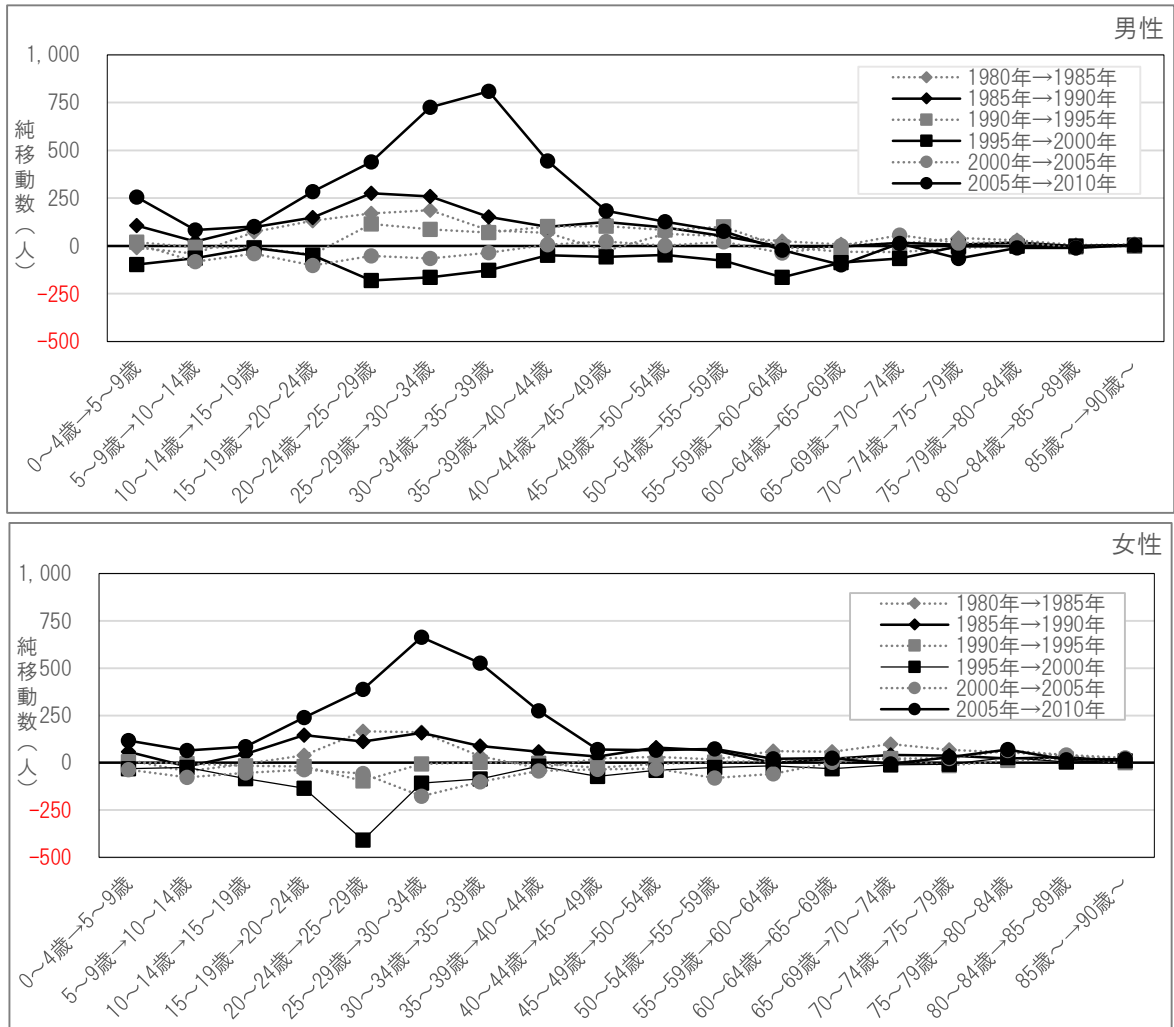
## 9. 性別年齢階級別純移動数の状況



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告（2013）」

本市の2013年の性別年齢別純移動数では、男女ともに20代～40代前半の転入超過が目立つが、地域で見ると埼玉県内の他市町村に対しては、多くの年代で転出超過の状況にある。また、男性は40代が大幅な転入超過であるのに対し、女性は45～49歳がすべての地域に対して転出超過となっている。また、年少人口は転出超過の傾向にあり、特に0～4歳の転出超過が目立つ。

## 10. 性別年齢階級別純移動数の推移

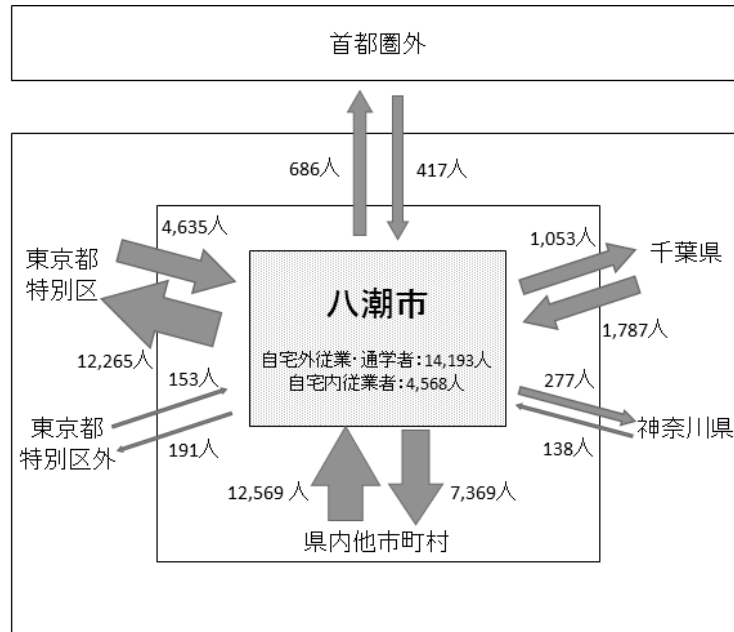


出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」

本市の性別年齢別純移動数の推移では、2005年から2010年の純移動数は男女ともに20代～40代を中心に転入超過が目立つ。一方で、つくばエクスプレス八潮駅開業前の1995年～2005年の10年間は、男女ともに各年代で転出超過が目立っており、特に20代前半女性の転出超過が著しい。

11. 流入・流出人口（15歳以上）の状況

	流入数（人）	流出数（人）	流入-流出（人）
県内他市町村	12,569	7,369	5,200
東京都特別区	4,635	12,265	-7,630
東京都特別区外	153	191	-38
千葉県	1,787	1,053	734
神奈川県	138	277	-139
首都圏外	417	312	105
合計	19,699	21,467	-1,768





順位	流入			流出				
	市区町村	総数（人）	就業者数（人）	通学者数（人）	市区町村	総数（人）	就業者数（人）	通学者数（人）
1位	草加市	4,389	4,202	187	草加市	3,143	2,769	374
2位	足立区	2,686	2,680	6	足立区	2,724	2,670	54
3位	三郷市	2,472	2,410	62	千代田区	1,460	1,340	120
4位	越谷市	2,064	2,015	49	三郷市	1,310	1,183	127
5位	吉川市	811	800	11	中央区	1,106	1,097	9
6位	葛飾区	735	735	0	港区	1,020	993	27
7位	川口市	653	621	32	越谷市	935	721	214
8位	春日部市	593	585	8	台東区	794	776	18
9位	さいたま市	478	477	1	葛飾区	682	638	44
10位	松戸市	468	467	1	新宿区	585	519	66
11位	松伏町	295	279	16	江東区	555	545	10
12位	流山市	279	277	2	さいたま市	521	365	156
13位	柏市	240	240	0	川口市	475	441	34
14位	野田市	225	225	0	墨田区	457	433	24
15位	江戸川区	211	210	1	文京区	449	325	124
16位	荒川区	171	171	0	渋谷区	357	317	40
17位	墨田区	153	153	0	品川区	334	318	16
18位	市川市	124	124	0	荒川区	288	270	18
19位	船橋市	117	117	0	豊島区	283	227	56
20位	北区	95	95	0	吉川市	256	256	0

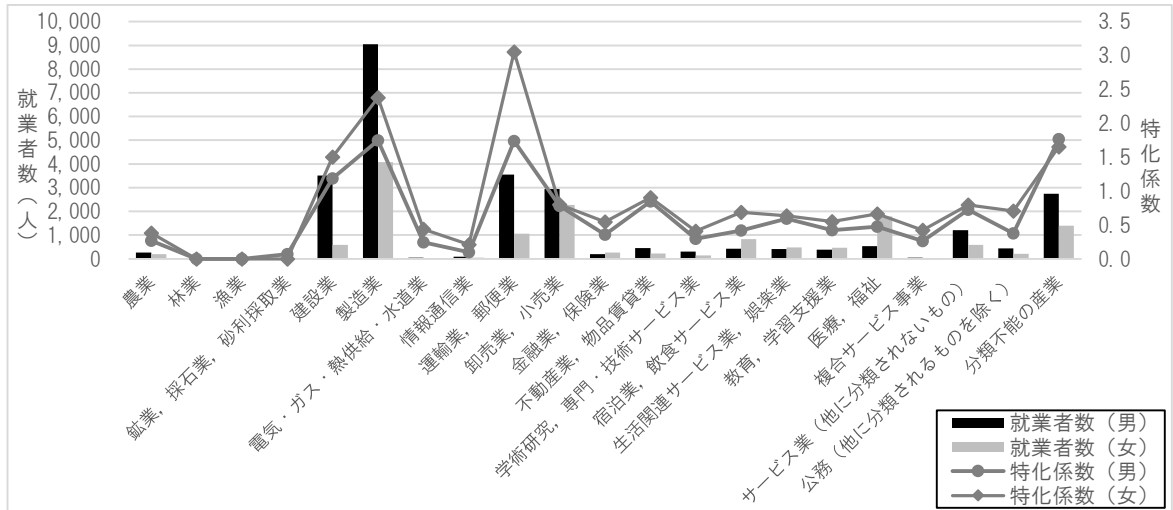
※網掛けのセルは、各項目の上位10団体

出典：総務省「国勢調査（平成22年）」

本市への流入は、就業者・通学者ともに埼玉県内の他市町村が中心となっており、1位は草加市となっている。東京都特別区では、足立区が2位、葛飾区が6位に位置しているほか、江戸川区、荒川区、墨田区、北区などの近隣区が上位20位以内に位置している。

一方、本市からの流出も1位は流入と同様に草加市となっているが、その他では、流入に比べ東京都特別区の占める割合が大きくなっており、14区が上位20位以内に位置している。

## 12. 産業別就業人口の状況



出典：総務省「国勢調査」

本市内の産業は、男女ともに「製造業」の就業者が多い。

男女別にみると、男性では「製造業」に次いで「運輸業、郵便業」、「建設業」の就業者が多く、女性では「製造業」に次いで「卸売業・小売業」、「医療、福祉」の就業者が多くなっている。

本市が全国と比べてどの程度その産業の就業者が多いかを示す産業特化係数を見ると、女性の「運輸業、郵便業」就業者の特化係数が最も高くなっている。